横浜市立青葉台小学校だより　第580号
令和5年6月30日

# 青葉 7月

学校教育目標
わたしらしく　あなたらしく
みんな なかよし 青葉の子

## 大人の支え

校長　　鈴　木　　彰

　夏休みが近づいてきました。子どもたちは、友達とのつながりが、日を追って増えてきています。新しいクラスで生まれた自分と友達とをつなぐ「線」は、少しずつ、自分と数人の友達をつなぐ「辺や対角線」へと広がり、今では「網の目」のようなつながりになっています。
　つながりが増えるととても学校が楽しくなります。でも、つながりが増えると、同時にトラブルも増えていきます。交友が広がるのだから、それも当然です。困ったり悩んだりしている子は、たくさんいると思います。私自身も、新しい環境に慣れるまでには時間がかかるほうですから、友達とのつながりでつまずく子の気持ちは分かります。
　以前、私が担任をしていたときに、こんな出来事がありました。

**　教室に行くと、廊下で女の子が一人泣いていた。**
**「どうしたの？　どこか痛いの？」**
**「それとも、嫌なことを言われたの？」**
**女の子がうなずいた。**
**「先生に、そのことを話せますか？」**
**女の子は、首を振った。**
**「話せないのは、意地悪をした子が怖いから？」と尋ねると、**
**「自分でなんとかできる」と答えた。**
**　私は、ほんの1秒か2秒の短い時間、頭の中でぐるぐると、いろいろなこと、とてもたくさんのことを考えた。必死に考えた。**
**そして、**
**「そう。じゃ、しばらくそこにいていいからね。気持ちが落ち着いたら、涙をふいて静かに教室に入っておいで。」「先生、待ってるよ。」**
**と言って、女の子を廊下に座らせ、私は教室に入った。**
**　しばらくすると、女の子が教室に入ってきた。席に戻るかと思ったら、私の所に歩いてきて、小さな声で言った。**
**「先生、ありがとう。」　　そして、席に戻った。**

　私は、「廊下ですぐに話を聞き出そうか」「廊下にいるまま話すまで待とうか」「教室で他の子どもたちから事情を聴いてすぐに指導しようか」など、とても迷ったことを覚えています。私がこの女の子の言葉を信じ、廊下で一人にするのは失敗につながるかもしれないと、臆病な気にさえなりました。でもこの子は、その言葉どおり、気持ちをしっかりと自分で整理して教室に入ってきました。このあと、私は、この子の気持ちに寄り添い、十分な時間を用意して話し相手になりました。そして必要な支援・アドバイスをしました。その後、この子は、彼女の「自分でなんとかできる。」の言葉どおり、自らの力で問題を解決しました。大きな成長を感じました。

　子どもは悩みをたくさん抱えます。その中で大人は、どこまで子どもの力を信頼し、どこからどこまでをどのように支えるか、本当に難しいですね。
　いつも子どもたちをあたたかく包んでくれている青葉台小学校の保護者の皆様に、心から感謝しています。